

栃本委員からの提供資料

揖保川流域河川整備計画について

姫路市立水族館 栃本 武良

旧・河川法時代の河川工事について

治水と利水のみが目的とされた旧・河川法の下で行われてきた河川改修工事では、そこに棲息する生物への配慮は「全く無かった」のは事実である。しかし、私自身が中学生の頃に社会科の授業において、河川を直線化することで残された蛇行部分が新しく土地利用され、雨水はすばやく海へと流すことが出来、コンクリートで固められた護岸は洪水の心配も無く全ての点において人間の生活に役立っていると教えられ、信じ込んだままで今日までに至っているのです。ごく最近までは多くの人々が私と同じような考え方をしていたものと思います。

平成2年に旧・建設省から「多自然型河川工事」の工夫をするようにという通達が出されました。自然環境を破壊し続けてきた建設省がこのような通達をなぜ出す事になったのでしょうか。一頃、日本列島改造論などといった言葉がはやりました。日本中をコンクリートとアスファルトで覆い尽くそうとでも言うのでしょうか？

従来の河川工事が、そこに棲息する水生生物のみならず、河川環境の周辺に棲息する陸上の生物・人間も含めてのことであるが、**・**に対して取り返しのつかない悪影響を与えてきたことが分かってきたのであり、緑や水の豊かな自然環境が健全な人間の成育に不可欠であることが分かってきたということである。

私は魚類を始めとして多くの水生生物を結果として殺してしまう水族館の飼育係を長年に渡って勤めてきた。しかし、従来の河川工事ではその数を示すことも出来ない程多くの命を闇から闇へと葬ってきたのも事実である。一例であるが、護岸工事は日中に行われるが川岸の横穴にはオオサンショウウオが休憩中である。穴の出入口をコンクリートで塞がれ生き埋めとなっている個体は数知れないだろう。カメもカエルも魚類もその他の無数の生物がコンクリート護岸の裏側で化石になっているのだ。と言って、私は土木の皆さんのみの責任であると言っているのではない。生き物を専門に扱っている人は多いが、それらの人々の声が小さかったことは否めない事実である。私自身もその力不足を省みている状況にあり、これ以上の環境破壊には領けないと考えている。

この、流域委員会では今後の数十年間の河川環境を良好に維持して、子孫へ手渡さねばならない使命をおびているものと思う。安易な河川工事や河川敷の利用は厳につつしみ、少なくとも今以上の環境破壊は行わない事を当委員会の提言の骨子にしたいと思う。土木のプロもその専門的な知識と技術を駆使して自然環境をいかにすれば破壊せずに、治水・利水を計る事が出来るのかを考えてほしい。旧来の考え方をガードするのではなく、自らの生活する環境を良好なものとして、後世に伝えることができるのかを模索し、挑戦してもらいたい。

No. 2 1 9

栃本：森林の高い流出抑制効果は、山間部だけでなく、中・下流域でも波及するものである。

執筆者：科学的知見にもとづかない内容を公文書に記載すると学会での市民権を喪失する恐れがあります。信念であれば別の話ですが。

.....

私は、科学的知見を尊重しない訳ではありませんが、知見の出されるのを待っていては手遅れになりかねない危険を感じています。これを信念と言われればそのとうりだと思います。しかし、科学者の最大の欠点は科学的に証明されないかぎり動けないという考え方にあると思います。危険を感じたらまず、立ち止まって考えることが重要だと思います。流域委員会は学会の場ではなく、流域住民の思いも含めた河川のあり方を提言していくべき性格であると思います。

降雨による水の流出については、従来の土木工学の世界ではいかに早く洪水にならぬように海へ「排水」するかが最重点の課題であったのではないのでしょうか。水の自然なサイクルは雨水が地面にしみ込み、ゆっくりとフィルターされて長い流程の河川の兩岸から湧き出て河川の流れを維持していくものだと思います。現在の日本では、緑のダムと言いはやされる山間部が杉檜の植林によりその役割を減少させ、市街地でも地面は屋根やアスファルトなどで覆い尽くされ、雨水は樋から側溝へ集められ、排水路と化した河川へ一気に流れだし鉄砲水になって海へと流れ去っているのが現実です。これは科学的な証明を必要とする事実でしょうか。

私は、河川の基本的な構造はこの伏流水とそれをバックアップする集水域の環境が重大な要素になっていると考えています。

No. 2 2 0

栃本：「森林管理」（山間部）だけでなく、中・下流全域における雨水の地下浸透構造を考える。

執筆者：No. 2 1 6 の記載では不十分でしょうか。総合治水対策のメニューを全部あげるときりがありません。一部の手法だけに限定するのは整備計画として問題があるかと思っています。

.....

私の考えはNo. 2 1 9 への回答と同様に、現在の地球上の「水のサイクルを正常に戻す」努力を、河川整備計画の中に明瞭に提言すべきであるということに尽きます。これは一部の手法などではなく、根本的な問題であると考えています。